

染織作家・むらたちひろ（1986年・京都生まれ）は、「染色」への探究心を始点に、「染める／染まる」という行為・現象に着目した作品制作に取り組んできました。

むらたは『目に見える景色は、変化し続ける世界のごく一部・ある一瞬を切り取ったものにすぎない』として、2015年くらいまでは特に『描くことへの意識』から、染色の滲みや拡がりを用いた染色作品を展開してきました。いわば、日常の中で見つけた描きたい景色を染料によって布に描き、そこに水を与えることで生じる変化（滲み）をもって、変化し続ける流動的な世界を描き出していたといえます。

2015年以降、むらたは自身の扱う技法である「染色そのもの」を眼差し、解体と点検をはじめます。染めるという行為、染まるという現象、染料が持つポテンシャルや布という支持体の特性まで、自身と染色にまつわるそれぞれは作品や取り組みへと切り分けられ、発表の機会を通じて私たちに投げかけられてきました。とりわけ「染める/染まる」を物理的な側面としてではなく、精神的な行為・現象と解釈した展開や、染色が持つ不可視の要素である水や時間を主題に据えた取り組みなどは、むらた自身の染色についての思考を深めるものになったといえます。

染色を行為・現象、あるいはマクロとミクロのそれぞれから眼差し、そこに現れる揺らぎに時間や記憶、精神や社会のあり方などをもうつつ見るむらたは、2019年から再び「描く」という感覚をもって「beyond」のシリーズ制作に取り組めます。しかし、ここでの「描く」という感覚は2015年以前のものとは異なるといえます。

画面上の染料が大きな流れや動きを思わせるとともに、細部においては豊かな階調や複雑な様相を見せる「beyond」シリーズ。ここでは、むらたの意思・身体の動きはストロークとなって布にうつされ、直後に水によって滲み、動き、揺らぎ、隣あう色はぶつかり合いながら次第に複雑な色面へと拡がっていく。そうして、むらたによる線は面へと、色は滲みへと変容するなかで、かつてのストロークは気配として残りながらも、細部には様々な様相が生じていく。このプロセスに感じる「遠さ」こそが、本シリーズにおいてむらたの描き出したものであるといえます。

『同じ時代に生きていても、人それぞれに見ている世界は違う。共感・共有できる近しさだけでなく、「遠さ」のなかにも築ける関係性があるのではないだろうか』とするむらたは、これまでの染色のプロセスにその「遠さ」を見出した体験から本作品の制作に取り組んでいるといえます。そして、「描くこと」が何かのイメージを「明確にする」ことであるなら、自身（染色）は遠く揺らぎ、滲む存在を「そのまま」に現すことができるものであるとも。つまり、本シリーズでは、2015年以前に染色の滲みを使って「変化し、近く遠くに揺らぐイメージ」を描くのと違い、遠ざかるが消えはしない。近づけるがひとつになることはできない。そこにある曖昧ながらも明確な距離を「遠さ」として眼差し、染色の滲みや動きによって「遠さそのもの」を描きだしているといえます。

本展は2020年に巨大な旧酒造を会場に開催した個展「すべとしるべ 2020 #01 :むらたちひろ 時の容 /while it goes」(オーエヤマ・アートサイト/京都)において、会場制作として取り組んだ大型作品や、2022年のVOCA展出品作品をはじめとするむらたの『beyond』シリーズ作品を中心に構成いたします。

染色という行為と現象、むらたの体験を起点とする本作品シリーズにおいては、染色によるイメージを描く・見せるのではなく、大型作品による空間によって染色そのものを体験・鑑賞いただく機会として構成します。

むらた ちひろ

<https://murata-chihiro.tumblr.com>

[artist statement]

染色によって広がる色は、生地の内・外、表・裏を横断的に、

あるいは一体のものとして渉ることができる。

そこに内包される時間的・空間的な揺らぎに、

[過去 / 現在 / 未来]、精神的な[近しさ / 遠さ]、

[私たち / 社会]をうつし見る。

[c.v]

1986年 京都生まれ

2011年 京都市立芸術大学大学院美術研究科工芸専攻修士課程修了

主な展覧会

2022 「VOCA展2022 現代美術の展望-新しい平面の作家たち-」（上野の森美術館 / 東京）

— TOKAS Emerging 2022「彼方の果」（トーキョーアーツアンドスペース本郷 / 東京）

— 個展「borders / boundries」（YOD Gallery / 大阪）

2021 「桐月沙樹・むらたちひろ：時を植えて / between things, phenomena, and acts」（京都芸術センター / 京都）*Co-program カテゴリーB採択企画

— 「行為と現象 II 本野東一へのまなざし」（染・清流館 / 京都）

2020 個展「すべとしるべ 2020 #01 :むらたちひろ 時の容 / while it goes」（オーエヤマ・アートサイト / 京都）

— 「写真と染のまじわりところ」（染・清流館 / 京都）

2019 「京都府新鋭選抜展」（京都府文化博物館 / 京都）'16

— 「第22回 染・清流展」（染・清流館 / 京都）'13、'15、'17

2018 個展「Internal works / 境界の渉り」（Gallery PARC / 京都）

— 個展「Internal works / 満ちひきは絶え間なく」（ギャラリー恵風 / 京都）

— 藤原隆男 京都市立芸術大学退任記念展「ほしをみるひと」（京都市立芸術大学Gallery @KCUA / 京都）

— 「PHO-TEX」（GALLERY GALLERY / 京都）

2017 個展「Internal works / 水面にしみる舟底」（ギャラリー揺 / 京都）

— 「未来の途中の、途中の部分」（京都市立芸術大学Gallery@KCUA / 京都）

— 「その後の、未来の途中」（京都工芸繊維大学美術工芸資料館 / 京都）

2016 「未来の途中のリズム」（京都工芸繊維大学美術工芸資料館 / 京都）

— ARTIST WORKSHOP @KCUA 成果発表展 ネリー・ソニエ「FEATHER」（京都市立芸術大学Gallery @KCUA / 京都）

— 「新鋭染色作家選抜12人展 -染めに拓く-」（染・清流館 / 京都）

2015 「Contemporary NOREN」（京都芸術センター / 京都）

2014 個展「時を泳ぐ人」（Gallery PARC / 京都）*Gallery PARC Art Competition 2014 採用企画

— 「THE GIFT BOXアーティストが提案する特別なギフト。」（京都府京都文化博物館 / 京都）

— 「Kyoto Current 2014」（京都市美術館別館 / 京都）'12

2013 「染+ -わたしにまつわるそめのはなし-」（染・清流館 / 京都）

2012 個展「水たまりアルバム」（Gallery Ort Project / 京都）

受賞歴

2021 清須市第10回はるひ絵画トリエンナーレ, 佳作

2011 京都市立芸術大学制作展, 奨励賞

2009 京都市立芸術大学制作展, 同窓会賞

展覧会評

2022 執筆：平野春菜「これから、ここからを待てる」|「時を植えて」記録冊子

— 執筆：渡辺亜由美「往来と循環」|「時を植えて」記録冊子

2021 執筆：勝冶真美「稜線の向こうを見る」|「すべとしるべ 2020」記録冊子

— 執筆：高嶋慈 | artscape 2021.5.15.号

— 執筆：松尾恵 | AMeeT 2021.5.28.

2018 執筆：高嶋慈 | artscape 2018.7.15.号

2017 執筆：平田剛志「染色の起源へ」| カタログ「境界 borders / boundaries」

2017 執筆：高嶋慈 | artscape 2017.6.15.号



Artist
web site
<https://murata-chihiro.tumblr.com>



Gallery PARC
artist info
過去の展覧会やインタビュー記事などを掲載



Gallery PARC
onlin store
本展览展示作品をはじめ、むらたちひろ作品をご購入いただけます。

beyond

murata chihiro

むらたちひろ

2022年8月13日[土] — 9月4日[日]
13:00 ~ 19:00 水・木休廊 / 入場無料

G a l l e r y P A R C
GRAND MARBLE

《何処へ》から《beyond》へ

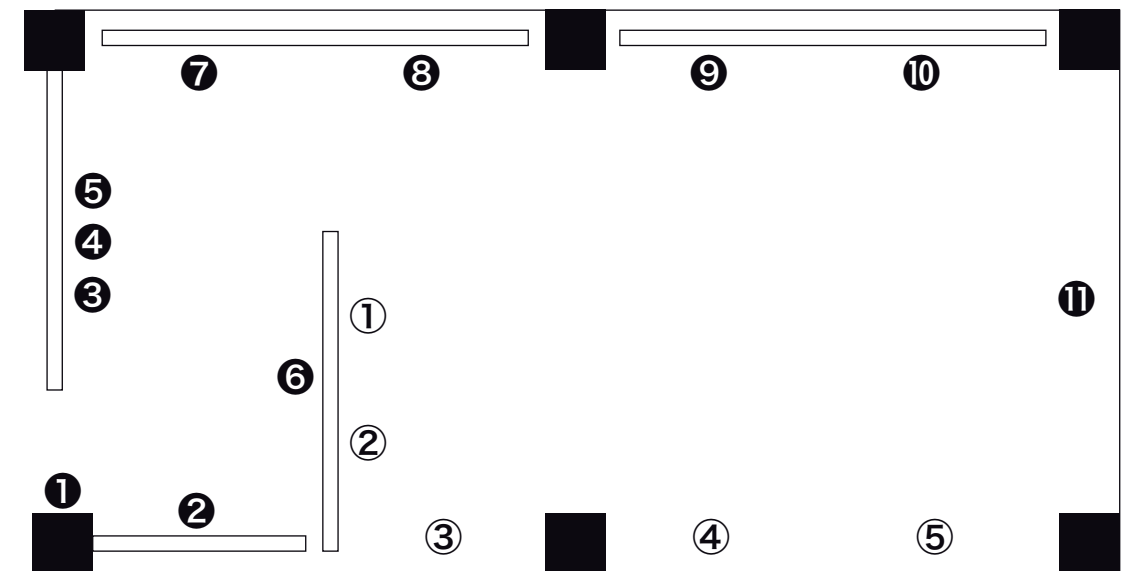
染液を生地に引くと同時に、滲んで遠ざかっていく色面を眺めていると、会えない友人の姿が思い浮かんだ。

遠くむこうで霞むようにしか見えない。その距離でいいからそこにいてほしいと思った。まわりの友人たちも「遠さ」のなかで、彼女を見つめていた。

遠ざけるための距離ではなく、関係を築くために必要な「遠さ」がある。

染めによって広がる色が、遠くへ空間が開けていくように揺らぐことで、「遠さ」そのものを描けるのではないかと考えた。

初めは「彼女」のことを想う時間だった制作は、次第に「遠さ」そのものへの探究へと変わっていった。



① 時の容 – 試作 –

2020
綿布・染料
57×30cm

② jouer

2021
綿布・染料
48×140cm

③ beyond – 小窓 – 07

2021-2022
綿布・染料
45.5×60.6cm

④ beyond – 小窓 – 09

2021-2022
綿布・染料
41×27.3cm

⑤ beyond – 小窓 – 10

2021-2022
綿布・染料
27.3×41cm

⑥ 何処へ

2019
綿布・染料
180×150cm

⑦ 何処へ

2019
綿布・染料
180×150cm

⑧ beyond – 影 –

2019
綿布・染料
140×100cm

⑨ distance 02

2019
綿布・染料
140×100cm

⑩ beyond – 小窓 – 06

2021-2022
綿布・染料
45.5×60.6cm

⑪ beyond 06 「遠さ」への光

2021
綿布・染料
240×340cm
*『VOCA展2022』出品作品

○ beyond Aug.- Oct. 2020, at Yagi / Kyoto

2020
綿布・染料
①・④ 270×172cm、② 165×172cm、
③・⑤ 200×172cm
*『すべてしるべ 2020 #01:むらたちひろ 時の容 / while it goes 』での、会場制作・展示作品。
作品制作の様子はエレベーター前に設置した映像でご覧いただけます。